

各 位

会 社 名 桂 川 電 機 株 式 会 社
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 渡 邊 正 禮
 (JASDAQ コード番号 : 6416)

問 合 せ 先 常 務 取 締 役 朝 倉 敬 一
 役 職 ・ 氏 名
 電 話 03-3758-0181

営業外費用(為替差損)の減少及び平成29年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成28年11月11日に公表いたしました平成29年3月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正するとともに、平成29年3月期第3四半期累計期間における営業外費用(為替差損)につきまして下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想の修正について

平成29年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	10,450	△ 414	△ 846	△ 920	△ 60.04
今 回 修 正 予 想 (A)	10,100	△ 850	△ 940	△ 950	△ 62.00
増 減 額 (B-A)	△ 350	△ 436	△ 94	△ 30	—
増 減 率 (%)	△ 3.3	—	—	—	—
ご参考:前期実績 (平成28年3月期)	10,640	△ 554	△ 649	△ 804	△ 52.51

修正の理由

主な要因といたしましては、前回修正時の販売面での企業間価格競争の激化は続き、日本を含むアジア地域での販売低下による売上げの減収、製品1台当たりに見る国内調達部材の原価圧縮の遅れによるコストの増加、新製品の顧客注文の早期対応に向けた搬送等に係る販売経費増加、欧州市場の販売体制の再構築に時間と費用を要する等、前回の予想から売上げの減収と利益率の悪化が見込まれるため、これらの状況を踏まえ通期連結業績予想を修正するものであります。

現在、売上げ増加に向けた販売戦略の再構築、国内での部材調達割合を更に海外に移すことで仕入コスト削減、日本及び台湾で製造している製品構成の見直しでの粗利益改善、製品の搬送を空輸から船舶輸送に切替えるなどで経費の見直しによる費用削減など、売上げの増加や利益率悪化の改善に取り組んでおります。しかし、期末に向けての効果は薄く、海外主体である当社グループの事業環境は厳しい状況が続くものと見込まれます。

(業績予想に関する留意事項)

なお、上記の通期連結業績予想の実際の業績につきましては、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。また、本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は経済や為替の動向等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。今後これらの影響額が判明し大きく変動した場合は、開示基準に従って速やかに開示いたします。

2. 営業外費用(為替差損)の減少について

1. 営業外費用(為替差損)の計上について

平成29年3月期第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日)において、5億円の為替差損を営業外費用に計上いたしました。その後の為替相場の変動により平成29年3月期第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日)の為替差損は1億22百万円に減少いたしました。

これは主として、平成28年12月末の第3四半期末時点において、当社グループが保有する外貨建債権債務を同日の為替相場場で評価替えたことにより発生した評価損であります。

なお、当該為替差損は平成29年3月期第3四半期末時点での為替相場による換算差額であり、平成29年3月期の決算におきましては、期末日の時価により為替差損の額は変動いたします。

2. 業績に与える影響

上記の営業外費用(為替差損)につきましては、本日開示の「平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」に織り込み済みであります。